

高等部研究部会

- 1 高等部の研究について
- 2 普通学級の日課表
- 3 本校の作業学習について
- 4 作業学習(農工班)学習指導案
- 5 まとめと今後の課題

1 高等部の研究について

研究テーマ 「生徒が主体的に取り組むことのできる作業学習を目指した授業を考える」

(1) 研究のねらい

- ・作業学習を通して、主体的に働く意欲を育てる。
- ・多様な生徒の実態にあった主体的に取り組むことのできる作業学習の展開を目指す。

＊高等部の目指す生徒が主体的に働く姿とは

「活動内容が分かり、自分から取り組む姿」

(2) 研究の進め方

- ① 「多様な生徒の実態にあった作業学習を展開する」ために、以下の5つの観点について授業実践を通して研究を深めていく。

＜観点＞ ①作業学習に取り組むための環境

②取り組みやすい道具、補助具

③生徒にとって分かりやすい具体的目標の設定

④単元の盛り上がりについて

⑤教師の関わり方

- ② 作業連絡会を年2回実施し、学級担任と作業担当者間で生徒の課題の整理と共通理解を図る。

- ③ 授業研究会を年2回実施する。部内研究会・全校研究会の各回とも授業展開は1班とし当該班の指導案を学部全体で協議する。

- ④ 全校研究会の学習指導案と今年度の研究のまとめを実践報告集に載せる。

(3) 年間計画

5月 8日（金）	第1回作業連絡会
9月29日（火）	部内研究会 授業展開（クラフト班） 講師 牧野英司先生（千葉県立市川特別支援学校）
10月28日（水）	第2回作業連絡会
11月 4日（水）	全校研究会 授業展開（農工班） 講師 牧野英司先生（千葉県立市川特別支援学校）

2 普通学級の日課表

曜 日		月	火	水	木	金	(分)
時 刻							
		自主通学生登校 8 : 3 0 ~ 8 : 4 5 着替え 8 : 4 5 ~ 校内清掃 スクールバス生登校 8 : 5 0 ~ 9 : 0 0 着替え					
1	9 : 0 0 ~ 9 : 2 0	日常生活の指導（ホームルーム）					20
2	9 : 2 5 ~ 1 0 : 1 5	保 健 体 育 自立活動（身体の動き）				音 楽	50
3	1 0 : 2 5 ~ 1 1 : 1 5	作 業 学 習				職 業 家 庭 自立活動	50
4	1 1 : 1 5 ~ 1 2 : 0 5	作 業 学 習					50
	1 2 : 0 5 ~ 1 2 : 5 5	給 食 ・ 休 憩					50
5	1 3 : 0 0 ~ 1 3 : 5 0	課 題 (国語・数学・自立活動を合わせた指導)			選択教科	特別活動 部集会	50
6	1 4 : 0 0 ~ 1 4 : 3 0	日常生活の指導（清掃・着替え・ホームルーム）					30
下 校							

【部活動】運動部および文化部：基本は月～木の4日間 自主通学生を対象に行う。

3 本校の作業学習について

知的障害のある生徒を指導している本校では、各教科等を合わせた指導である作業学習に教育課程上多くの時間を割いている。

週日課表からも分かるとおり、週予定時間30校時（1校時50分授業）のうち、8校時分を作業学習に充てている。作業学習の目標については下記の3点に定め、目標実現のため実践を行っている。

- ・働くことに意識を持ち、自らの生活を作り上げていく力を育てる。
- ・卒業後の生活に視点をあて、生徒一人一人の実態や課題を明確にし、自ら考え進んで働く力を身につける。
- ・産業現場等における実習を通して生徒の課題を明らかにするとともに、進路選択の基盤を養う。

今年度の高等部の作業学習は、木工班、染色班（牛乳パックを使った紙すきや布を染めた製品）、手芸班（手織りと布製品）、工芸班（ビーズアクセサリ）、陶芸班、農工班（野菜栽培と加工品）、栽培班（花苗やしいたけの栽培）、クラフト班（クラフトテープを使った編みかご）の8班体制で実施している。また、実施上の留意する事柄として、以下の4点を学部内で確認し、授業を進めている。

- ・1～3年の縦割りグループの8作業班で実施する。
- ・単元化を図り販売会前の3日間程度は午後も作業学習を実施する。
- ・校内実習や販売会（とみよう祭）当日や販売会集会を作業学習に含む。
- ・A学級の生徒も作業班に所属し、生徒の実態にそって学習に参加する。

4 作業学習学習指導案

高等部 農工班 作業学習 学習指導案

日時 平成27年11月4日(水)
10時25分～12時05分

授業場所 調理室 農工室 裏門側畑

指導者 T1、T2、T3、T4、T5

1 単元名 「とみよう祭に向けて、野菜を収穫して、食品加工に取り組もう」

2 学習集団について

農工班は、1年生5名、2年生6名、3年生5名(男子11名、女子5名)の計16名で構成されている。言葉の説明で作業内容を理解し、作業に取り組める生徒、教師の言葉かけや支援で作業が行える生徒、除草や運搬作業等の粗大運動を中心に行える生徒など、実態の幅は広い。

1学期は全員で、野菜を育てるための土づくり、畝づくり、播種(種まき)、鉢上げ、植え付け、管理、収穫という畑作業の流れをもとに取り組んできた。また、昨年度の班員が植えた大根を収穫、加工し、漬物作りも行った。生徒の実態に応じて、土作りや除草を中心に行う生徒、機械や道具を使用し、畝作りやマルチ張りをする生徒、苗の生育を管理する生徒などグループを分けて活動し、収穫作業は全員で行った。天候や野菜の生育状況によって作業内容とグループの変更があるため、作業内容に見通しがもてないことや、普段と違う作業になるとモチベーションが下がってしまう生徒もいた。しかし、1学期の一連の流れを経験することと、作業手順の支援を整えることで、2学期は生育する野菜は異なるが、道具の準備や活動内容に見通しをもてるようになっている。また、畑作業の基本である栽培方法や生育の管理について学ぶため、農業の専門家を招き、一緒に作業をする機会を設けることで、準備の段取りの大切さや正確さも意識するようになってきている。

2学期は、作業種や販売製品の拡大をねらい、2つのグループに分け、播種、鉢上げ、植え付けから育てた野菜を収穫して加工する作業に取り組む。収穫した野菜でパウンドケーキを作る「ケーキグループ」を新たに加え、1学期から取り組んでいる漬物作りは、天候や生育状況をふまえて畑作業と並行して行う「畑・漬物グループ」とする。それぞれのグループのメンバー構成は、1学期の作業の様子、本人の希望や生徒の適性及び個別の指導計画などを考慮して決めた。ケーキ作りや漬物作りに関する手順を繰り返し行うことで、道具の準備や後片づけ、作業の正確性等に気をつけ、主体的に取り組む姿勢が身についてきている。

3 単元について

高等部では、学期ごとに7月の「サマーフェスタ」、11月のとみよう祭で行う「レインボーショップ」、2月の「ワクワクフェスタ」という年3回の販売会が計画されている。サマーフェスタでは、お客様に自分たちが作った野菜を手にとってもらったり、購入してもらったりする経験を通して、野菜を育てて販売する楽しさを体験した。また、野菜が完売すると、作業班全体で喜びを分かち合い、「収穫量を上げたい」、「お客様に喜んでもらえる製品を増やしたい」等、作業に対するやりがいや芽生えてきた。

本単元は、レインボーショップで販売する野菜や大根の漬物、パウンドケーキ作りをする期間である。農工

班の「工」とは、加工製品からきており、収穫した野菜を加工し、販売している。そのため、「ケーキグループ」は、夏に収穫したカボチャ、秋に収穫したサツマイモ、紫イモを加工してケーキ作りを行う。野菜の加工バリエーションが多く、日持ちもするパウンドケーキは、レインボーショップの人気商品で、毎年売り上げが高い。また、天候や作物の生育状況によって作業内容が左右される外作業と違い、毎日安定したペースで作業ができ、作業を連続して行うための集中力や持続力、調理器具を安全に使用できる操作性を身につけることができる。「畑・漬物グループ」は、1学期に覚えた技術を生かして秋冬野菜の生育を管理し、収穫する。また、収穫量に応じて大根を加工した漬物作りも行う。どちらのグループも食品を扱うため、「ケーキグループ」ではコックコートやコック帽、「畑・漬物グループ」の漬物作りでは、エプロンや三角巾の着用、爪等の身だしなみを必ずペアでチェックし、衛生面の細かい配慮についても各自が気をつけるように促している。コックコートやコック帽の着用は昨年度から始めたが、着用することで食品を扱うという意識をより高めることができている。

農工班では、お客様に美味しいと思ってもらえる野菜や加工製品を協力して作り、完売することを班全体の共通の目標にしている。収穫時に作物を大切に扱うことや、出来上がった加工製品の規格が同じになるように各自が意識して作業に取り組むようにしていきたい。そのため、手順の中で分からないときや困ったときは、その都度自分から教師に報告・連絡・相談をするように促し、規格・基準を統一して製品作りを行っている。また、単元の盛り上げの一つとして、収穫時に、販売の規格に見合わなかった野菜を使って鍋料理を作って食べる調理活動や加工製品の試食会を行っている。さらに、加工製品に関しては、校内販売で購入してくれたお客さんへ製品に対するアンケート調査を定期的に行う。アンケートを記入してもらうことで、自分たちだけでは気付かなかった製品への改善点や意見を班全体で共有し、ニーズに合った製品作りへの意欲へつなげたい。

とみよう祭までの単元の中で、野菜が収穫できたときやパウンドケーキが焼き上がったときの感動、おいしいと言って加工製品を食べてもらえる喜びを一人一人が味わい、班員全員が「良い製品を作りたい」、「販売会でたくさんの製品を完売させたい」、という気持ちを高め、主体的に作業に取り組む力を伸ばしていきたいと考えている。

4 単元の目標

- ・グループのメンバーと協力して主体的に作業を進めることができる。
- ・とみよう祭に向けて、お客さんのニーズに合った加工製品作りに取り組むことができる。

5 指導計画

(1) 計画を進める上での工夫

〈「多様な生徒の実態にあった作業学習が展開できるようにする」について〉

①作業に取り組むための環境を整備する。

- ・役割によって調理器具や材料を整理し、作業台を固定する。（漬物、ケーキ）
- ・その日の作業グループ、作業内容、道具の準備について始めに確認し、見通しをもって取り組めるようにする。（畑）

②取り組みやすい道具、補助具を工夫する。

- ・手順表を提示し、生徒が自分で確認しながら進められるようにする。（漬物、ケーキ）
- ・道具倉庫を整理し、道具の置き場所を固定する。（畑）
- ・作業場所の動線や目印を視覚的に示す。（畑）

③生徒にわかりやすい具体的な目標を設定する。

- ・1日全体の目標個数をホワイトボードに掲示する。（漬物、ケーキ）
- ・収穫する畝やマルチを張る畝を決め、担当の範囲や列を決める。（畑）

④単元としての盛り上がりを作る（販売会等）。

- ・出来高を毎回報告する場を作り、日々の製作意欲を高める。（ケーキ）
- ・自分たちで育てた野菜や加工製品を試食し、感想を言い合う。（畑、漬物、ケーキ）
- ・お客さんに加工製品のアンケート調査を行い、よりお客さんのニーズに合った製品作りを行う。
(漬物、ケーキ)

⑤教師の関わり方を工夫する。

- ・教師も役割を決め、生徒と一緒に作業をし、一体感を高める。

(2) 日程計画

日程	学習内容		備考
9／24（木）	ケーキグループ	畑グループ	畑グループ 雨天時の活動 ・道具の手入れ ・作業室の片付け、清掃 ・ポップコーンほぐし
	とみよう祭導入集会 ケーキグループ発表、説明		
9／25（金）	カボチャのケーキ作り 試食会：カボチャケーキ	畑の管理（草取り等）	
9／28（月）～10／1（木）		畝作り・マルチ張り キャベツの苗植え	
10／5（月）～10／8（木）	サツマイモ、紫イモの収穫、試食会：焼き芋		
10／13（火）～10／17（土）	↓	畝作り・マルチ張り キャベツ、ブロッコリーの苗植え	
10／20（火）～10／22（木）		サツマイモ、紫イモケーキ作り 大根播種	
10／26（月）～10／30（金）	校内実習期間 試食会：サツマイモ、紫イモケーキ、大根の鍋料理		
11／2（月） 11／4（水）●本時		大根収穫 大根の漬物作り	
11／5（木）	↓	野菜収穫	
11／9（月）～11／13（金）	○販売準備 ○直前集会 11／12（木） ○プレ販売会 11／13（金）		
11／14（土）	とみよう祭当日（販売活動）		
11／18（火）～11／20（木）	○後片付け、事後集会 11／17（火） ○事後学習		

※→がついている期間は、畑の管理、ケーキ作りを継続して行う。

6 本時の指導（ケーキグループ）

（１）本時の目標

- ・自分の役割を理解し、手順を確認しながら正確に作業を行うことができる。
- ・手順の中で確認してほしいときの報告や分からないときの相談をすることができる。
- ・準備から後片付けまでメンバーと協力して行うことができる。

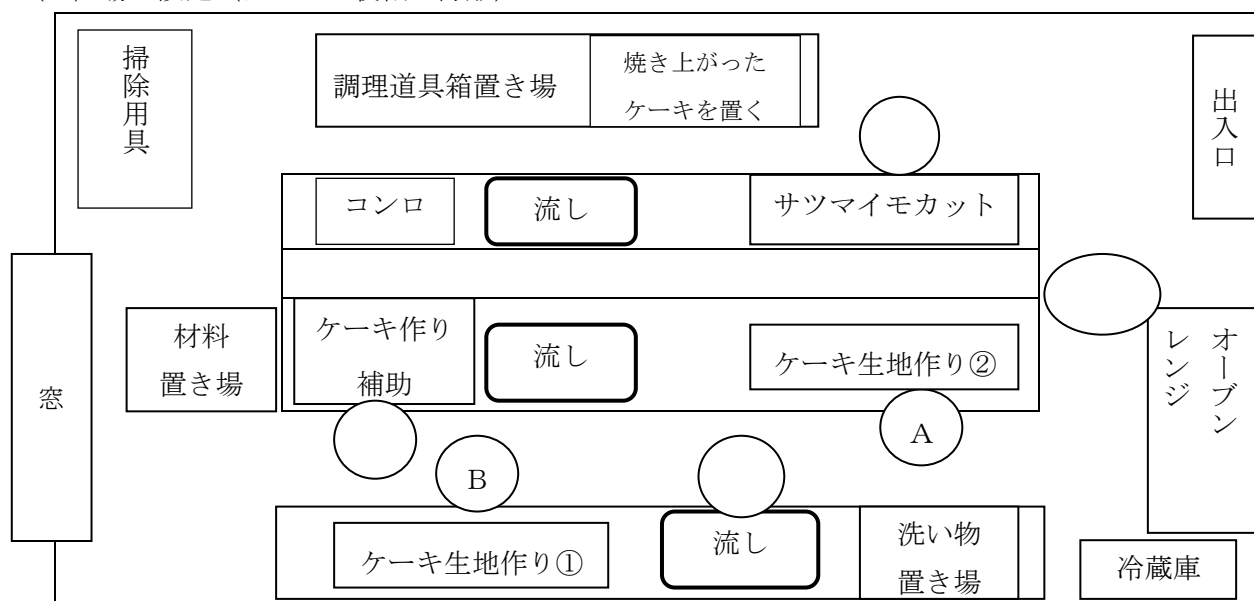
（２）展開

時配	生徒の活動	支援上の留意点	教材等
10	※時間通りに作業が始められるように「ケーキグループ」の生徒は、調理室に直接来て準備をすすめる。 ○あいさつをして入室する。 【準備】 ○コックコート、コック帽を着用し、鏡を見ながら身だしなみを整え、ペアでチェックをする。 ○せっけんで手を洗い、消毒する。 ○調理台をふく。 ○調理道具や材料、台ふきを所定の場所に置く。 ○班長のかけ声で集合し、始まりのあいさつをする。自分の最初の役割、作るケーキの本数をホワイトボードを見ながら確認する。 ※「サツマイモケーキの生地を作る」生徒が2名、「ケーキの生地作りの準備をする」生徒が1名、ケーキの具材である「サツマイモを包丁で切る」生徒が1名、「洗い物をする」生徒が1名おり、4つの役割を同時展開する。役割は、生徒の様子を見て交代しながら回していく。	・使用する調理道具をまとめておく。 ・T1が材料を用意しておく。（卵、マーガリンは常温に戻しておく。） ・身だしなみチェック表を用意し、コック帽やコックコートがきちんと着用できているか、マスクをつけ、頭髮が出ていないかペアで確認するように伝える。 ・道具がセットできているか確認する。 ・ホワイトボードにはじめの役割と目標を記載して説明する。 A→サツマイモケーキの生地を作る B→サツマイモケーキの生地を作る C→ケーキの生地作りの準備をする D→サツマイモを包丁で切る E→洗い物をする	・コックコート ・コック帽 ・鏡 ・チェック表 ・石けん ・消毒液 ・台ふきん ・ホワイトボード

70	【調理】 ◎サツマイモケーキ生地を作る 生地作り①、生地作り②（A、B） ① マーガリン100 gを混ぜる。 ② 砂糖130 gを5回に分けて入れ、泡立て器でホイップクリームのようにになるまで混ぜる。 ③ ハンドミキサーに持ち替えて2分混ぜる。 ④ 泡立て器に持ち替えて卵3つと牛乳30 gをといたものを5回に分けて入れ、混ぜる。 ⑤ 油38 gを入れて混ぜる。 ⑥ サツマイモ400 gの具材を入れ、混ぜる。 ⑦ ゴムべらに持ち替えて薄力粉200 g、ベーキングパウダー7 gを3回に分けて入れ、混ぜる。 ⑧ 電子量りを使用し、生地を型に流す。流したらT1に報告する。 ⑨ 生地を整え、高さ20 cmのところから型を落とし、空気を抜く。 ⑩ 天板に型を並べる。 ⑪ 作業台をきれいにし、次の人の用具を整える。 ◎ケーキの生地作りの準備をする（C） ① 卵3つと牛乳30 gを混ぜる。 ② 小麦粉200 gとベーキングパウダー7 gをふるいにかける。 ③ 次に作るための小麦粉200 g、ベーキングパウダー7 g、砂糖130 gの計量をする。 ④ 洗い物をふく。 ◎さつまいもを包丁で切る（D） 	・ 作り方の手順表を見やすい位置に掲示しておく。 ・ ②、④の工程には「混ぜ方注意」と記載しておく。 （②の工程は、泡立て器で力強く混ぜ、細かい気泡をマーガリンに含ませる必要がある。④の工程は、卵を入れた後、混ぜすぎるとマーガリンが分離し、味を損なったり、生地の変質に影響したりするため混ぜ方に注意する必要がある。） ・ 生地を型に流し入れたらT1が重さを確認し、微調整をする。 ・ オーブンの出し入れや温度操作はT1が行う。 ・ 補助の仕事の手順表を掲示しておく。 ・ 衛生面を配慮し、卵はT1が割る。 ・ 容器にそれぞれの量を記載し、容器を見ながら計量ができるようにする。 ・ 安全な包丁の使い方ができているか見守り、危険な場合には、言葉をかけたり、実際に教師が切って手本を見せたりする。 ・ 大きさの目安が分かるように見本と切り方の手順表を掲示しておく。	・ 手順表 ・ 材料を入れるケース ・ ボウル ・ 泡立て器 ・ ハンドミキサー ・ タイマー ・ ゴムベラ ・ タッパー ・ スプーン ・ ケーキの型 ・ 電子量り ・ オーブン ・ 天板 ・ 手順表 ・ ふるい ・ ボウル ・ はし ・ 電子量り ・ 滑り止めシート ・ 手順表 ・ ピーラー ・ 包丁 ・ まな板 ・ ゴミ袋
----	--	--	--

10 10	◎洗い物をする（E） ○ボールにお湯をためる。 ○油分のあるタッパーや調理器具は、ボールにつけながら洗う。 （4つの役割を交代しながら行う） 【後片付け】 ○掃除当番表を見て、流し掃除、床ふき、道具整理、洗濯の仕事に分かれ、後片付けを始める。 ○流し掃除の人がゴミをまとめる。 【反省】 ○ケーキの焼き上がり、目標本数を達成できたか確認する。 ○作業室に戻り、ケーキの本数を畑グループに伝える。 ○作業ノートに記入し、反省会を行う。 ○終わりのあいさつをする。	・洗い残しがないように言葉をかける。 ・洗い残しがある場合は、もう一度洗うように伝える。 ・生徒の様子を見ながら役割を交代するタイミングを伝える。 ・流しや床に汚れが残っていないか確認するように伝える。 ・1人ずつ反省や今日の感想を聞く。 ・今日の作業を振り返り、全体の評価と明日の予定を伝える。	・ボウル ・洗剤 ・スポンジ ・掃除分担表 ・出来高表 ・シール ・作業ノート
---------------------	--	--	--

（3）場の設定（はじめの役割の隊形）



(4) 評価

- ・自分の役割を理解し、手順を確認しながら作業をすることができたか。
- ・手順の中で確認してほしいときの報告や分からないときの相談をすることができたか。
- ・メンバーと協力して準備から後片付けまで行うことができたか。

7 本時の指導 (畑グループ)

(1) 本時の目標

- ・メンバーと協力して大根を収穫し、泥を残さずに洗うことができる。
- ・自分の役割の仕事に責任をもち、大根の漬物を 12kg 作ることができる。

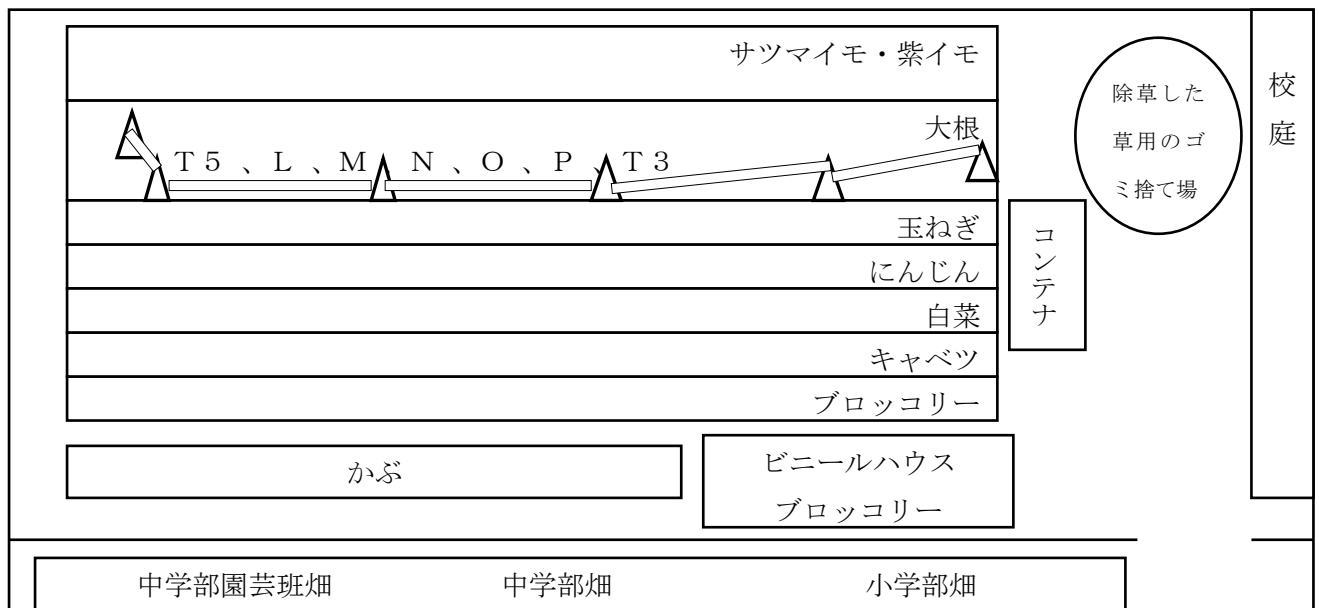
(2) 展開

時配	生徒の活動	支援上の留意点	教材等
10	※作業室にきた人から作業着やエプロンをつけて身支度を調える。 【準備】 ○今日の作業内容を知る。 ・大根の収穫グループ、大根の漬物グループの道具を確認する。 ・大根の収穫グループは、道具の準備をして裏畑に行く。 ・大根の漬物グループは作業室で調理の準備を始める。	・必要に応じて着替えを支援する。 ・作業内容が分かるように作業グループと道具をホワイトボードに提示しながら説明をする。(T2) ・畑の道具がそろっているか確認する。(T3、T5) ・漬物の調理道具の準備がそろっているか確認する。(T2、T4)	・作業着 ・エプロン ・調理用帽子 ・名前カード ・道具カード
60	【作業】 ◎大根の収穫グループ (L、M、N、O、P)、(T3)、(T5) ① 収穫適期の大根を探す。 ≪収穫適期の目安≫ ・外葉が垂れているもの ・大根の首が6～7cmのもの ② 引き抜き、コンテナまで運ぶ。 ③ 大根を入れたコンテナをリヤカー、一輪車で作業室前へ運ぶ。 ④ トロ船に水を張り、葉を利用して大根を洗う。 ⑤ 漬物グループに大根を渡す。 ⑥ 漬物分の大根が洗い終わったら、洗った大根をカゴに入れ、販売準備を行う。 ⑦ 準備ができたなら台車で事務室前に持って行く。	・収穫する大根が分かるように大根の葉に目印をしておく。 ・株元を持って引き抜くように言葉をかけたり手を添えて一緒に行ったりする。(T3、T5) ・運ぶ場所が分かるように、始点と終点に目印を置く。 ・軍手を着け、大根の葉を取り、まとめた物を使用して大根を傷つけないように洗うように言葉をかける。(T3、T5)	・軍手 ・一輪車 ・リヤカー ・ビニール紐 ・コンテナ ・コーン ・とろ船

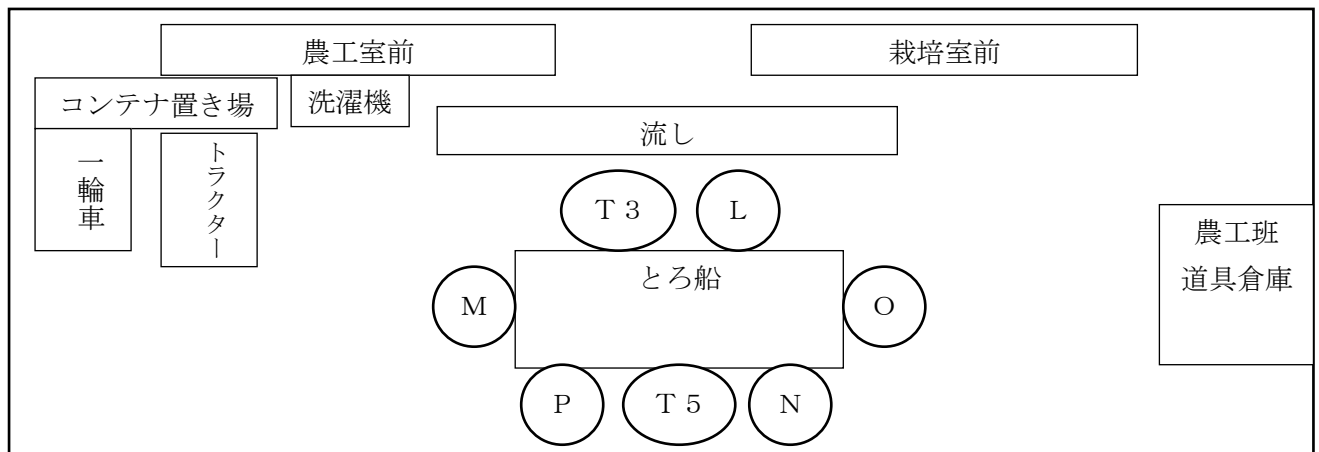
	◎大根の漬物グループ (F、G、H、I、J、K)、(T2)、(T4) ○エプロン、三角巾、マスクがついているか身だしなみをペアで確認する。 ○せっけんで手を洗い、消毒する。 ○作業台をふく。 調理手順 ① F、(T2) 大根の皮をピーラーでむく。 ② G、H、I、(T4) ・まな板の下に滑り止めシートを敷く。 ・大根の使えない部分を包丁で切り落とす。 ・半分に切る。 ・4等分に切る。 ・1kg ずつ重さを量り、J、Kに渡す。 ③ J、K、(T2) 砂糖 1 kg と塩 1 合が混ざったボールに切った大根を入れ、まんべんなくまぶす。 ④ 漬物たるにまぶした大根を入れる。 ⑤ F、(T2) たるに酢と酒を 2 合ずついれる。 H、I、(T4) ⑥ 大根に押しぶたをのせ、重しを置く。	・身だしなみチェック表を用意する。 ・ピーラーを持っていない片方の手に軍手をつけるように伝える。(T2) ・大根を切るときに、左手でしっかり押さえているか確認する。(T4) ・包丁は、所定の位置を決め、使用しない際は、置いておくようにする。 ・量りに 1 kg の目盛りが分かるように目印をつけておく。 ・大根にまんべんなく砂糖と塩をまぶせているか確認する。(T2)	・チェック表 ・マスク ・せっけん ・消毒液 ・台ふきん ・軍手 ・手袋 ・ピーラー ・まな板 ・滑り止めシート ・包丁 ・ボール ・鍋 ・量り ・計量カップ ・漬物たる ・押しぶた ・重し ・バケツ ・ゴミ袋
10	【後片付け】 ○道具の後片付けをする ・使用した道具を洗い、所定の場所に戻す。 ・道具の個数を確認する。 ・使用した軍手をバケツに入れ、洗う。	・道具をきれいに洗えたか点検する。(T2、T3、T4、T5) ・道具の個数を確認するよう言葉をかける。(T3、T5) ・軍手が洗えたか確認する。(T3、T5)	
10	【反省】 ○作業ノートを記入し、反省会を行う。 ○終わりのあいさつをする。	・1人ずつ反省や今日の感想を聞く。 ・今日の作業を振り返り、全体の評価と明日の予定を伝える。(T1)	・作業ノート

(3) 場の設定

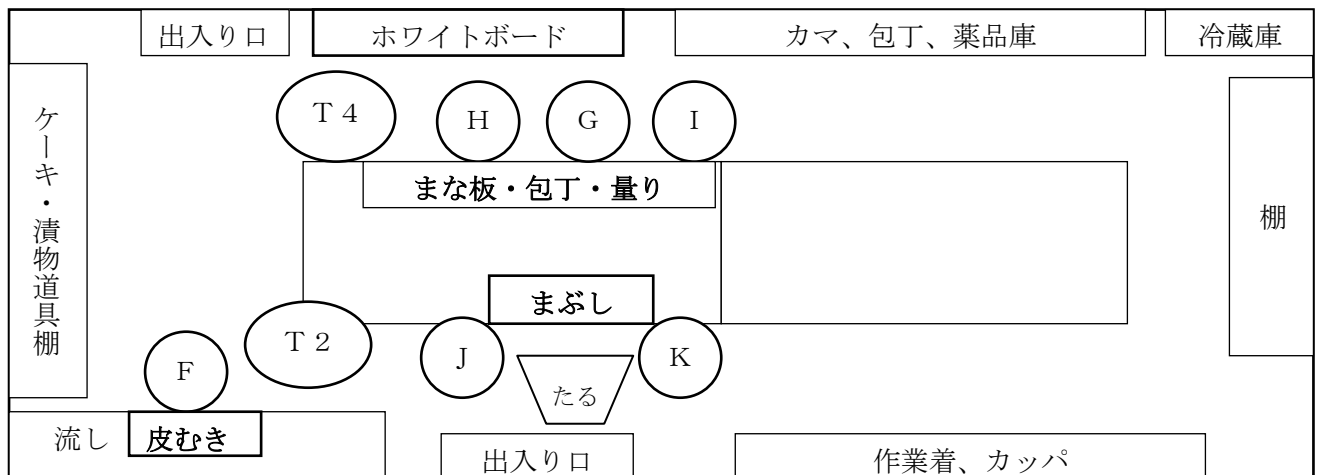
〈裏畑 収穫作業〉



〈農工室前 洗い作業〉



〈農工室 漬物作り〉



8 生徒の様子、目標、手立て

生徒		本時までの様子	本時の目標	本時の手立て
ケーキグループ	A 3年 女	ケーキ作りに意欲的に取り組み、調理器具の扱い方にも慣れてきた。材料を5回に分けて入れるなど、数を数えながら行う行程に苦手意識があるが、声を出しながら数えることで間違えることがなくなってきた。 自分の仕事が終わると、周囲の様子を見て、気にかけることができるが、友だちの仕事を過度に手伝おうとすることがある。	・ケーキの生地作りの工程を正確に行うことができる。 ・担当の仕事が最後まで終わったら教師に報告し、次の仕事を確認することができる。	・手順表を用意し、生地を混ぜすぎないことや気をつけるポイントを記載する。 ・担当の仕事が終わったら教師に報告し、次の仕事を確認するように授業の最初に伝える。
	B 2年 女	時間はかかるが、どの役割にも丁寧に取り組んでいる。ケーキ作りを始めた当初は、ケーキをうまく作れないことを気にしていた。しかし、繰り返し取り組むことで、ケーキ作りに自信を持ち始めた。 声は小さいが、報告、相談は必ずしようとする姿が見られる。	・相手に聞こえる声で報告や相談をすることができる。 ・30分以内にケーキの生地を作ることができる。	・始まる前に声の大きさを確認する。報告や相談が聞こえない場合は、もう一度伝えるように促す。 ・10分ごとに時間を伝え、進行状況を確認し、声をかけたり手伝ったりする。
	C 2年 男	畑に関する知識は豊富だが、長時間の立ち仕事が苦手で座り込んでしまうことがあった。 ケーキ作りでは、どの役割も内容を理解し、道具の使い方なども見本を示すと上手に使いこなせる。ケーキの生地作りでは、手順表を見ているが、たまに集中力が欠け、工程をとばしてしまうことがある。	・準備や後片付けを協力して行うことができる。 ・一つ一つの工程を間違えずに行うことができる。	・役割分担表を提示し、本人の仕事を明確にする。 ・砂糖や卵を5回に分けて入れる工程や、粉を3回に分けて入れる工程のときに声を出して確認しながらやるように伝える。
	D 2年 男	草取りや堆肥運びを長時間行う集中力がある。前期実習では、事業所へ行き、指示された仕事をこなすことができた。卒業後、事業所に勤める可能性もあることから、他者とのやり取りが増えるケーキグループにした。	・自分から質問や報告を教師にすることができる。 ・安全面に留意して均等な大きさにサツマイモ	・報告をする必要がある工程には「確認」と手順表に記載しておく。 ・手順表や見本を用意し、切り方や大きさ

		日々の目標数を意識しながら仕事に取り組んでいる。調理器具の使い方も日に日に上手になってきているが包丁の扱いにまだ慣れていない。	を切ることができる。	を具体的に示す。
	E 2年男	指示されたことに集中して取り組むことができる。1学期は、自分のやるべきことが終わってしまうと、周囲の様子を眺めているだけで「終わりました。」の報告が自分からできなかった。しかし、ケーキ作りを始めてからは、手順の中で分からないことや終わったことの報告を少しずつ自分からできるようになってきた。ケーキの生地作りでは、丁寧に行えるが時間がかかる。	• 手順の中で、分からないことや確認したいことを教師に質問することができる。 • 時間を意識してケーキ作りに取り組むことができる。	• 手順表に教師への確認が必要な箇所や調理の注意事項を示す。 • 10分ごとに時間を伝え、進行状況を確認し、声をかけたり手伝ったりする。
大根の漬物グループ	F 1年男	作業内容に見通しや意欲がもてると継続的に取り組むことができるが、好まない作業や本人の気分が乗らないと作業を自分で中断してしまうことがある。 土作りの作業や本数を決めた草取りの作業は比較的継続して行うことができる。大根の漬物作業では、大根を何本むくのか確認し、見通しをもって取り組めるようになってきた。	• 決められた本数の大根の皮をむくことができる。 • 安全面に留意してピーラーを使うことができる。	• 大根のむく本数を最初に示す。 • 大根を持つ左手に軍手をはめて皮をむくようにし、手元が危なくないか教師が確認しながら行う。
	G 3年男	(実習中のため本時は欠席) 手先が器用で、機械や道具を使って畝を作ったり土を耕すといった技術が必要とする作業を行うことができる。 大根を包丁で切る作業では、手際よく行うことができるが、本数が増えると正確さに欠けることがある。	• 安全面に留意して均等な大きさに大根を切ることができる。	• 切った物は、ボウルに移し、切るスペースを十分に確保する。 • まな板に大根の置く位置、切る位置を示しておく。
	H 3年男	マルチ張りなど技術が必要な作業も指示を聞きながら、教師と一緒にすることができる。 大根を切る作業では、教師の手本を見ながら一人で行うことができるが、	• 安全面に留意して均等な大きさに大根を切ることができる。 • 大根を1Kgずつ正確に量ることができる。	• 切る前に大根の大きさを一緒に確認する。 • 量りに目印をつけておく。

		大根の大きさが変わると戸惑うことがある。		
	I 2年男	畑作業は、教師の指示を聞いて動くことができている。しかし、細かい仕事が苦手で消極的な様子が見られる。 大根の漬物作りも、初めは手元が不安定だったが、繰り返し行うことで少しずつ慣れてきた。	- 安全面に留意して均等な大きさに大根を切ることができる。 - 大根を1Kgずつ正確に量ることができる。	- まな板に大根を置く位置と切る位置を示しておく。 - 量りに目印をつけておく。
	J 1年男	どの作業種でも積極的に取り組むことができる。大根の播種活動では、マルチビニールの穴を目印に、深さ1cmほどの穴をあけ、2粒ずつ丁寧に入れることができた。 大根の漬物作りでは、大根に砂糖と塩をどのくらいまぶせばよいのか分からなくなってしまうことがある。	- まぶす量が分からないときは、教師に質問することができる。 - 大根に砂糖と塩をまぶすことができる。	- 本人の様子を見ながら言葉をかけ、隣で見本を見せながら行 - 大根に砂糖と塩を均等にまぶせるよう5秒間数えるように伝える。
	K 3年女	作業内容を覚えると、一人で作業をすることができる。収穫時の野菜を判断することや、草取りの場所を自分で判断することは難しいが、教師の言葉かけで行うことができる。 大根の漬物作りでは、砂糖と塩をまぶす工程を気に入っており、見通しをもって行うことができる。	- 作業に集中して、時間いっぱい取り組むことができる。 - 一人でむらなく大根に砂糖と塩をまぶすことができる。	- 作業が途切れないように、本人の様子を見ながら切った大根を渡す。 - 大根に砂糖と塩をむらなくまぶせるよう5秒間数えるように伝える。
大根の収穫グループ	L 1年女	畑作業を好み、意欲的に取り組んでいる。細かい作業に苦手意識があるが、大根の播種活動では、マルチビニールの穴を目印とし、一つの穴に2粒ずつ正確に入れ、土をかけることができる。また、収穫した大根を大根の葉を使用して洗うことができる。	- 任された畝の大根を収穫することができる。 - 洗う活動では、大根が傷んでいないか確認しながら洗うことができる。	- 収穫時の大根の葉に目印をつけておく。 - 教師と一緒に洗いながら傷を確認する。
	M 1年男	大根の播種活動では、一つの穴に正確に2粒の種を入れることができる。収穫活動では、収穫された大根を所定	友だちから「運んでください」と言われた大根を所定の場所まで運	コンテナを置く場所の目印を明確にする。
		の場所まで運ぶことができる。	ぶことができる。	コンテナまでの動線

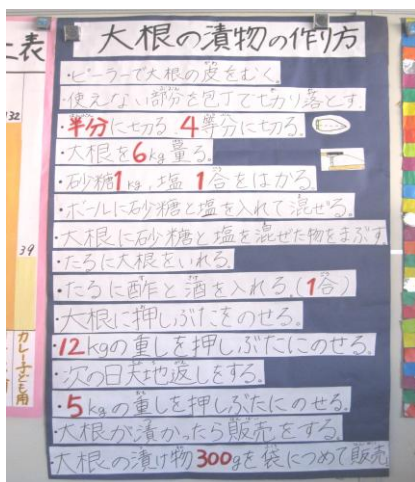
			をコーンとコーンバーを置いて示す。
N 1年 男	畑の活動を好み、時間いっぱい集中して草取りや運搬に取り組むことができる。大根の播種活動では、教師から種をもらい、穴に入れることができる。また、収穫した大根を所定の場所まで継続して運ぶことができる。	・一輪車を使用して大根を運ぶことができる。	・一輪車が他の畝に入らないように、コーンとコーンバーを置いてコンテナまでの動線を示す。
O 3年 男	決められた範囲の収穫や草取りを継続して行うことができる。大きさが適当な野菜を自分で判断することは難しいが、目印を自分で探して収穫を一人で行うことができる。	・大根を傷つけずに収穫することができる。 ・大根を水で洗い、泥をきれいに落とすことができる。	・抜くときに葉の根元を持ってまっすぐ上に引くように言葉をかける。 ・見本としてきれいに洗った大根を提示する。
P 2年 女	かがんだりしゃがんだりする屈伸運動が苦手だが、1学期から収穫作業に取り組み、教師と一緒に野菜を拾い上げることができるようになってきた。継続して作業をすることは苦手だが、教師と一緒に活動することで作業に参加することができる。	・教師と一緒に大根を収穫し、コンテナまで運ぶことができる。	・本人が持ちやすい斜めがけの袋を用意し、大根の出し入れがしやすいようにする。

- ・メンバーと協力して大根を収穫し、泥を残さずに洗うことができたか。
- ・自分の役割の仕事に責任をもち、大根の漬物を12kg作ることができたか。

1	マーガリンを溶泡器で混ぜる。		
2	砂糖を5箇に分けて入れ、溶泡で混ぜる。 空気を含ませてホイップクリームのようにふわふわにする！ ハンドミキサーにもちかえてはやはりでも混ぜる。 (タイマーで2分)	まぜ方 ポイント 注意！	
3			
4	泡立て器にもちかえて 卵 を5箇に分けて入れる。 まぜすぎは×！ 卵 が生地になじむように！	まぜ方 ポイント 注意！	
5	油を入れて泡立て器で混ぜる。		
6	サツマイモの具材を入れて泡立て器で混ぜる。		
7	ゴムべらにもちかえて粉を3箇に分けて入れ、混ぜる。 あせらずさっくり。ひらがなの「の」を書くように！		
8	電子量りにケーキの型を置き、生地をながす。	ポイント 確認！	
9	生地を表面をきれいにする。		
10	型の周りをキッチンペーパーできれいにふく。		
11	型を 20 cm の高さから落とす。		
12	次順に型を重ねる。		
13	調理台をきれいにふく。次の人の準備をする。		

[illegible][illegible]

食べた感想を「おいしい」「ふつう」「イマイチ」という欄のどれかにシールを貼ってもらう。意見があれば付箋に書き、「アドバイス」に貼ってもらう。



とろ船

6 まとめと今後の課題

(1) 研究の経過

- ①販売会单元ごとに、各作業班で5つの観点について手立てを設定して授業実践を行った。
- ②5月と10月に作業連絡会を行い、生徒一人一人の様子や課題の理解を深め、授業実践に活かした。
- ③9月の部内研究会ではクラフト班が授業展開をし、高等部内で以下のように協議をし、講師より助言を受けた。

<協議会での意見・質疑応答>

①作業学習に取り組むための環境を整備する

- ・限られたスペースの中で、棚などの工夫がよくされていた。
- ・完成品が見えるように提示していたのが、生徒のモチベーションアップになっていてよかった。
- ・教室の使い方についてももう少し工夫の必要がある。
- ・かごを活用していたが、準備のための物なのか、完成品を入れるための物なのか？
→必要に応じて使用していた。編みグループでは、一人ずつのかごにあらかじめ必要な材料を入れてあり、かごを持って来れば一人で作業を進められるようにしている。他のグループでは編み途中の物を入れたり、完成品を入れたりするために使用するなど、用途はグループごとに異なる。

②取り組みやすい道具、補助具を工夫する

- ・補助具が工夫されており、特にIさんは昨年の様子と比べると集中力して取り組めており、やりがいを感じているように見えた。
- ・手順表については、個々の生徒に合った物をもっと用意できたらよいと思う。

③生徒にわかりやすい具体的な目標を設定する

- ・出来高表の付箋が目標製作数分あらかじめ貼ってあり、それを剥がしていく形になっていた。付箋が増えていく方が生徒にとっては分かりやすいのではないかな。
- ・1日単位での目標を設定した方がよい。
- ・出来高表の付箋を剥がした後はどうしているのか？
→まだ、出来高表が十分に活用できていない。今後は剥がした付箋を生徒の作業ノートに貼っていき、積み重ねていく予定。

④单元としての盛り上がりを作る

- ・販売会に向けて、“ここまでできた”という共通理解があるとよい。
- ・出来高表をみんなで確認することは、製品が完成したことを実感することが難しい生徒でも達成感を共有しやすい。
- ・出来高表を提示したときの生徒の反応はどうだったのか？
→全体で付箋を剥がすという使い方はしていないので、今後改善をしていきたい。

⑤教師の関わり方を工夫する

- ・ホールで活動している生徒については黙々と取り組めていた。
- ・教室で活動しているグループについては、生徒に対して教員の人数が少なく感じた。
- ・言葉掛けが必要最低限でよかった。

<部内研究会での講師指導> (講師：牧野英司先生)

[主体的について]

生徒が主体的に取り組むことができる授業作りとは、受け身でない生徒達の姿を求めるというこ

と。すなわち、自分から進んでやるということであるが、全ての生徒がそれが可能というわけではない。多くの支援が必要な生徒の支援の数を少しでも減らす、自分でできることを増やすことも同時に見ていけるとよい。作業学習においては、させられる作業から、自分で取り組む作業に変えていく必要がある。そのためには、教師の指示がなくても取り組めるように環境を整え、言葉掛けは必要最低限にすることが重要である。本時の授業では、かなりの生徒が自分で取り組むことができていた。

〔環境設定、補助具について〕

教師が実際に使ってみて、補助具が本当に使いやすい物なのかを確認した方がよい。作業をやっていて、うまくいったことを本人が実感できるようにし、成功体験を積み重ねていくことが必要である。本時の授業では、途切れない仕事量が確保されており、教師の指示も必要最低限だったことがよかった。

〔目標設定、単元の盛り上がりについて〕

作業をやっていて、よいことがないと進歩しない。やって怒られるようでは、伸びない。取り組む期間に節目をつけて目標を立てることが大切である。最終的にはとみよう祭だが、それまでに例えば途中で注文票などを作り、注文を受けてそれに応えるなど、いくつか節目を入れるとよい。生徒達と もっとやれることはないかということと一緒に考え、それを実行することで生徒達のモチベーションアップにつながる。反省で挙げられていた終わりの会での盛り上げ方については、何に（今回ならばとみよう祭）向けてやっているのだという確認をするとよい。本時の授業では、班長がすぐに「今日の反省はありますか？」と全体に投げかけていたあたりから、“反省会”という印象を強く感じた。終わりの会では、できたことをお互いに報告し合い、達成感を共有することで、生徒達のモチベーションを上げられるような場にしていけるとよい。

部内研究会の協議と講師助言を振り返り、各作業班で、とみよう祭販売会単元の観点における目標と手立ての見直しを行った。

④ 11月の全校研究会では農工班が授業展開をし、他学部先生と以下のように協議し、講師から助言を受けた。

＜協議会での意見・質疑応答＞

①作業に取り組むための環境を整備する

- ・手順表がよかった。イラスト、写真入りで分かりやすく、生徒達が自分のやる事が分かっていて。
- ・服装が統一されており、生徒達の意欲につながっていた。
- ・生徒が教師に、自然な形で相談することができていた。取り組む環境がよかったということではないか。
- ・動線をもっとはっきりとした方がよい。

②取り組みやすい道具、補助具を工夫する

- ・個別の手立てがもっとあってもよいと思う。

③生徒に分かりやすい具体的な目標を設定する

- ・生徒が「おいしい味」を分かっているのではないかな。
- ・目標をよりはっきりさせることで、生徒のモチベーションも上がるのではないかな。

④単元としての盛り上がりを作る

- ・アンケート調査がよかった。生徒の主体性につながると思う。
- ・個人の目標を達成し満足感を得て、グループ全体の目標達成につながると思う。

- ・アンケートの結果をどのように反映させたのか？

→生徒自身がアンケート結果を見て、「〇〇した方がよい」などと意見を出していた。また、改善点を書いて掲示した。

⑤教師の関わり方を工夫する

- ・教師の関わりが安心を与えていた。
- ・今後、教師が行っている仕事を、生徒に任せていくという姿勢が必要ではないか。

<全校研究会での講師指導>（講師：牧野英司先生）

[主体性について]

生徒が主体的になるためには、主体性をそぐ手助けや言葉掛けは最小限にする必要がある。また、作業学習は訓練ではない。目標に向かって取り組み、成功体験を積み重ねていくことで主体性につながっていく。本時の授業では、意欲的に取り組む生徒の姿が多く見られた。

＊ケーキグループでは、教師の指示で役割を交代していたが、繰り返しの作業を増やすことで教師の指示が減り、より生徒の主体性が高められたのではないか。

[環境設定、補助具について]

(ケーキグループ)

- ・調理器具の場所が固定されており、非常に整理されていた。しかし、活動場所が調理室の左側に偏っていた。水道の配置が関係していると思うが、もっと空いているスペースも有効に使えるとよい。
- ・手順表が生徒の目線の高さに合わせて掲示してありよかった。
- ・サツマイモをカットするための補助具が分かりづらかった。余分な部分が多かったので、もう一工夫があるとよい。

(畑・漬け物グループ)

- ・畑の動線を示すコーンは分かりやすくよかったが、抜いた大根を置く位置に検討が必要。もっと効率的な動線になるように工夫をするとよい。
- ・収穫する大根に印を付けていたが、それではほとんどの大根に印を付けなくてはならなくなってしまい、教師の負担が大きい。抜かない大根に付けるようにしたり、全部抜いてから選別するようにしたりするなど変更した方がよい。教師の負担が大きいと、生徒の仕事に対して「ありがとう」と言えなくなってしまう。

[目標設定、単元の盛り上がりについて]

- ・出来高表は、漬け物グループにも必要だと思われる。
- ・アンケートをとったり、規格外の野菜で鍋を作ったりなど、単元の盛り上がりを意識した取り組みがなされていてよかった。
- ・福祉まつりでケーキが午前中に完売した話を聞き、生徒の意欲が高まっていた。
- ・今後、販売準備も意欲的に行えるとよい。単元の盛り上がりにつながっていく。

[指導案について]

- ・本時の目標について：最初に作業学習でしか狙えない目標を書き、日常生活などでも狙えるコミュニケーション面の目標などは後に書く。
- ・ケーキグループの具体的な目標数を授業内では提示していたので、本時の目標に入れた方がよい。
- ・日程計画の中に、とみよう祭特別日課・福祉まつりも明記した方がよい。

（３）今年度のまとめと課題

今年度は、昨年度までの研究の成果を引継ぎつつ、さらに授業実践を充実させるために「生徒が主体的に取り組むことのできる作業学習を目指した授業を考える」をテーマに授業研究を中心に取り組んだ。

高等部全体で「生徒が主体的に取り組む姿」とは「教師の支援や言葉かけがなくても、活動内容が分かり自分から取り組む姿」とし、また、１人で取り組むことが難しい生徒については上記のような姿により近づくために、教師が言葉かけを減らし、補助具や視覚的な支援により一人で活動できる場面を増やしていくことを共通理解とし、各班の狙いとした。その手がかりとして、昨年度まで活用してきた観点資料を活用し各班販売会の単元ごとに反省と次単元への課題とした。加えて、教師が互いに授業内容について意見交換を行う場を設けることができた。授業研究会では、今年度も県立市川特別支援学校教頭、槇の英司先生を学校に招き、助言を受けることで、授業の質の向上を目指すことができた。

＜成果と課題＞

① 「多様な生徒の実態にあった作業学習を展開する」ために、５つの観点について各作業班で単元ごとに話し合いをもうけ、授業づくりを行った

成果	・観点が整理されていたことで、班ごとにより具体的な話し合いを行うことができ、作業環境を整えることができた。また、単元後に反省点や課題をあげ、次単元に活かせるようにした。
課題	・班の特性やスペースの問題等により、「単元の盛り上げ方」についての取り組み方が難しい班があった。単元の途中で班の実態に応じて注文を受けたり、試食したりする等の工夫が必要である。

② 作業連絡会を年２回実施し、学級担任と作業担当者間で生徒の課題の整理と共通理解を図った。

成果	・学級担任と作業担当者間で生徒の課題の整理と共通理解を図ることができた。特に実習後に行った連絡会では、実習先より指摘・指導のあったことを作業担当者で共通理解を図ることで、目標や課題点などが明確になり、より具体的な手立てのもと指導にあたることができた。
課題	・８班体制のため時間を多く取ることが難しかった。２日に分けるなど、より話し合いを充実させるための工夫が必要である。また、話し合いの観点を明確にするための書式を作製し短時間でも効率的な話し合いが行われるようにしていく。

③ 授業研究会（部内研・全校研）

成果	・グループ協議では、提起された課題に結論を出す形にしたことで、活発な協議になりよかった。また他学部からの広い意見を今後の活動に役立てることができる。
課題	・研究授業を行った２班以外に、講師指導を汎用していくことが難しい面もある。

＜次年度の方向性＞

高等部では、このテーマになって１年目であるため、来年度も引き続き作業学習で取り組んでいきたい。作業連絡会については話し合いを充実したものにするため、形式をそろえるための書式を研究係で準備し継続していきたいと考えている。来年度は、教育課程の見直しも含めて、さらに各班の作業学習が充実し、生徒のより主体的な姿が見られるよう授業実践に取り組んでいきたい。

(2) 各班のまとめ

高等部8班での授業研究のまとめとして、観点についての手立てと成果を以下に載せる。

< 農工班 >

①作業に取り組むための環境
・加工製品作りでは、役割によって調理器具や材料を整理し、作業台を固定した。場所によって自分のやるべき仕事が分かり作業効率が上がった。
②取り組みやすい道具、補助具
・加工製品作りは、写真入りの手順表を用意し、写真を確認しながら進められた。 ・一輪車の通り道をコーンとバーで示すことで、他の畝に入ることなくスムーズに収穫した野菜や草を運ぶことができた。
③生徒にわかりやすい具体的な目標を設定
・ケーキや漬物の目標数を毎回設定することで生徒がその目標を意識して取り組むことができた。 ・収穫する範囲や担当の畝を示すことで、責任をもって仕事に取り組むことができた。
④単元としての盛り上がりを作る（販売会等）
・野菜や加工製品の試食会を定期的に行い、食べた感想を班員で共有した。もっとたくさん作りたい、売れる製品にしたいという一体感を高めることができた。 ・製品の試食会を校内の先生向けに行い、アンケート調査をした。多くの意見を聞き、製品作りに生かすことができた。
⑤教師の関わり方を工夫する
・教師も役割を決め一緒に作業をすることで、生徒が教師に質問しやすい環境を作ることができた。

< 木工班 >

①作業に取り組むための環境
・生徒ごとに作業場所を固定することにより、きれいな作業環境を維持することができた。
②取り組みやすい道具、補助具
・スライドカッターにガイドを取り付けたり、そのまま排水ができる水切りかごを作ったりなど、道具や補助具を改善することで、一人で自信をもって作業に取り組めるようになった。
③生徒にわかりやすい具体的な目標を設定
・製品を組み立てる生徒には目標数や、生産した製品の合計金額などでわかりやすく示した。製材や部材加工を丁寧にできる生徒には、スピードを上げて作業できるように数量の目標を設定した。
④単元としての盛り上がりを作る（販売会等）
・前回の販売会の売上高を目安として目標数を設定し、目標達成への意欲をもてるようにした。
⑤教師の関わり方を工夫する
・生徒が自信を持ち、主体的に作業学習に取り組めるように、指導するときや称賛するときにめりはりをつけた。

< 染色班 >

①作業に取り組むための環境
・生徒の実態に応じて作業機の位置を調整し、作業動線を整えたことで自分の担当する作業に集中して取り組めるようになり、作業の効率が向上した。
②取り組みやすい道具、補助具
・作業で使用する道具や材料の位置を一定にし、自分で作業の準備や後片付けをするようにしたことで、より主体的に作業に取り組めるようになった。
③生徒にわかりやすい具体的な目標を設定
・個別に出来高表などを用意し、目標製作数や進捗状況を理解できるようにしたことで、作業に見通しをもちながら取り組むことができた。
④単元としての盛り上がりを作る（販売会等）
・各販売会に向けて、全員で目標や製作目標数を考えることで、作業班に一体感が生まれた。 ・どのような製品がお客様に求められているか、季節感のある製品は何かを自分たちで考える時間を設け新製品を作ることで作業への意欲が高まった。
⑤教師の関わり方を工夫する。
・教師の言葉かけをできるだけ少なくし、教師も一緒に作業に取り組むことで、班全体で作業に集中しようという雰囲気が生まれ、集中して製品作りに取り組むことができた。

< 工芸班 >

①作業に取り組むための環境
・作業に使用する道具を種類別に分けて収納したことで、作業内容に適した道具を自分自身で間違えずに選び、作業を進めることができるようになった。
②取り組みやすい道具、補助具
・手順表を生徒の実態に合ったものにしたたり、通す順番を記したビーズケースを用意したりしたことで、生徒からの不必要な質問や教師の説明が減り、作業の効率がよくなった。
③生徒にわかりやすい具体的な目標を設定
・作業ノートにその日の反省を記入し、反省をもとに次の時間の目標も記入するようにしたことで、毎時間の活動に明確な目標を持って取り組めるようになった。
④単元としての盛り上がりを作る（販売会等）
・単元目標を班の生徒全員で考えたことで、一人一人が自分の目標として捉え、販売会の準備や当日の接客に意欲を持って臨むことができた。
⑤教師の関わり方を工夫する。
・報告や相談が難しい生徒のために「できました」「わかりません」などのコミュニケーションカードを用意したことで、生徒自身から教師に自分の意思を伝える姿が見られるようになった。

< 陶芸班 >

①作業に取り組むための環境
・生徒の実態に合わせてグループ編成をし、作る製品や作業を行う場所等を固定した。グループごとに作業を進めていくことができたので、作業効率が上がった。
②取り組みやすい道具、補助具
・型や型紙などを用いることで一定の質を維持した製品を作ることができるようになった。 ・大きめの柄杓を何本か用意したことで、釉薬をかける作業効率が上がった。
③生徒にわかりやすい具体的な目標を設定
・販売会に向けて、作る製品や生産目標数を決定したことで、生徒が計画的に作業に取り組むことができた。
④単元としての盛り上がりを作る（販売会等）
・販売会までのスケジュールや目標を提示したことで、見通しをもって作業に取り組めた。 ・販売方法について分担などを見直し、生徒たちがより協力して行えるようになった。
⑤教師の関わり方を工夫する
・生徒個々に仕事内容と目標を示すことにより、教師の指示がなくても自分の仕事に取り組めた。 ・一緒に仕事をする仲間として接したり、お互いの製品を評価し合ったりしたことで、生徒の意欲が高まった。

< 栽培班 >

①作業に取り組むための環境
・道具の置き場所を決め、写真や名前を掲示したことにより、一人で準備や片付けができるようになった。 ・ハウス内の整理をしたことで動線が確保され、効率よく作業に取り組むことができた。
②取り組みやすい道具、補助具
・生徒が使いやすいように、取っ手の付いたふるいを準備することで、一人で土ふるいに取り組めるようになった。
③生徒にわかりやすい具体的な目標を設定
・一日の活動予定、目標数をホワイトボードに掲示することで、見通しをもって活動できるようになった。
④単元としての盛り上がりを作る（販売会等）
・単元ごとに、全体目標と個人目標を作成し、販売会への意欲を高めるようにした。 ・販売会までの作業スケジュールを提示したことで、生徒が見通しをもって作業に取り組むことができた。
⑤教師の関わり方を工夫する
・教師が生徒に対する言葉掛けのタイミングを意識したことで、報告や質問が自分からできるようになった。

< 手芸班 >

①作業に取り組むための環境
・材料を製品別にかごに入れ視覚的にわかりやすくしたことで、生徒が自ら進んで材料を取り仕事を行うことができた。
②取り組みやすい道具、補助具
・手順表や拡大見本を作成したことで、工程の理解が進んだ。 ・はさみに補助具を付けたことで、容易に裁断ができるようになった。
③生徒にわかりやすい具体的な目標を設定
・グループ毎に出来映えや製品数などについて個人目標を立てたことで、生徒が計画的に作業に取り組むことができた。
④単元としての盛り上がりを作る（販売会等）
・反省会でそれぞれの製品や出来高を発表し、称賛する機会を設けたことで、個人の製品ではなく手芸班の製品という認識をもつことができた。
⑤教師の関わり方を工夫する
・報告・相談の仕方を始めの会で見本を示したことにより、正しくできるようになってきた。 ・適切な言葉遣いで報告・相談をするように促したことで、職場という雰囲気を保つことができた。

< クラフト班 >

①作業に取り組むための環境
・生徒一人一人にかごを用意し、その中に必要な道具や補助具を入れておくことで作業効率が向上した。 ・工程ごとに棚に材料を入れておくことで、生徒が自主的に担当している材料を取りに行き、作業に取り組むことができた。
②取り組みやすい道具、補助具
・一定の長さにクラフトテープを切ることができる補助具を生徒の実態に合わせて数種類用意したことで、より主体的に作業に取り組むことができた。 ・土台作りでは、製品ごとに手順表を用意し、生徒自身で確認しながら作業を進めることができた。
③生徒にわかりやすい具体的な目標を設定
・全体の目標数とともに製品ごとに目標数を設定し、視覚的にわかりやすい出来高表を提示したことで、見通しをもって計画的に作業に取り組むことができた。
④単元としての盛り上がりを作る（販売会等）
・単元ごとに、班全体の目標や次の販売会ではどんな製品を販売したいか全員で話し合っ決めてきたことで、意欲的に作業に取り組むことができた。
⑤教師の関わり方を工夫する
・教師からの言葉掛けを極力少なくすることで、生徒が自ら気づき考えて行動することができるようになった。

（３）今年度のまとめと課題

今年度は、昨年度までの研究の成果を引継ぎつつ、さらに授業実践を充実させるために「生徒が主体的に取り組むことのできる作業学習を目指した授業を考える」をテーマに授業研究を中心に取り組んだ。

高等部全体で「生徒が主体的に取り組む姿」とは「活動内容が分かり自分から取り組む姿」とした。教師が言葉かけを精選し、補助具や視覚的な支援により一人で活動できる場面を増やしていくことを共通理解とし授業実践に取り組んだ。また、昨年度まで活用してきた観点資料を活用し各班で販売会の單元ごとに反省と課題を検討するとともに、教師が互いに授業内容について意見交換を行う場を設けることができた。授業研究会では、今年度も県立市川特別支援学校教頭、牧野英司先生を学校に招き、助言を受けることで、授業の質の向上を目指すことができた。

＜成果と課題＞

① 「多様な生徒の実態にあった作業学習を展開する」ために、５つの観点について各作業班で單元ごとに話し合いを設け、授業づくりを行った。

成果	・観点が整理されていたことで、班ごとにより具体的な話し合いを行うことができ、作業環境を整えることができた。また、單元後に反省点や課題をあげ、次單元に活かせるようにした。
課題	・班の特性やスペースの問題等により、「単元の盛り上げ方」についての取り組み方が難しい班があった。単元の途中に班の実態に応じて注文を受けたり、試食をしたりする等の工夫が必要である。

② 作業連絡会を年２回実施し、学級担任と作業担当者間で生徒の課題の整理と共通理解を図った。

成果	・学級担任と作業担当者間で生徒の課題の整理と共通理解を図ることができた。特に実習後に行った連絡会では、実習先より指摘・指導のあったことを作業担当者で共通理解を図ることで、目標や課題点などが明確になり、より具体的な手立てのもと指導にあたることができた。
課題	・８班体制のため時間を多く取ることが難しかった。２日に分けるなど、より話し合いを充実させるための工夫が必要である。また、話し合いの観点を明確にするための書式を作成し短時間でも効率的な話し合いが行われるようにしていく。

③ 授業研究会（部内研・全校研）

成果	・グループ協議では、提起された課題に結論を出す形にしたことで、活発な協議になりよかった。また他学部からの意見を今後の活動に役立てることができる。
課題	・研究授業を行った２班以外にも講師指導を汎用していく工夫が必要である。

＜次年度の方向性＞

高等部では、作業学習で研究に取り組んで５年目である。今年度は研究テーマを変更して１年目であり、具体的な課題も見えてきた。そのため、来年度も引き続き作業学習で取り組んでいきたいと考えている。作業連絡会については話し合いをより充実した内容にするため、形式をそろえるための書式を研究係で準備し継続していきたい。

来年度は、教育課程の見直しも含め、さらに各班の作業学習が充実し、生徒がより主体的に取り組むことのできる授業実践に取り組んでいきたい。